

こえに だして よみましょう。

飴<sup>あめ</sup>だま ③

にいみなんきち  
新美南吉

すると、もうひとりの子<sup>こ</sup>どもも、

「かあちゃん、あたしにも。」

といました。



お母<sup>かあ</sup>さんはふところから、紙<sup>かみ</sup>のふくろをとりだしました。ところが、飴<sup>あめ</sup>だまはもう一つ<sup>ひとつ</sup>しかありませんでした。

「あたしにちょうだい。」

「あたしにちょうだい。」

ふたりの子<sup>こ</sup>どもは、りょうほうからせがみました。

飴<sup>あめ</sup>だまは一つ<sup>ひとつ</sup>しかないの、お母<sup>かあ</sup>さんはこまってしまいました。

「いい子<sup>こ</sup>たちだから待<sup>ま</sup>っておいで、向<sup>む</sup>こうへついたら買<sup>か</sup>ってあげるからね。」